

- 2023年度第4回放出以降は、当面の間、2段階放出を年1回行うこととしており、2025年度は第7回放出時に2段階放出を実施します。
- 2026年3月4日、2025年度第7回放出（2段階放出）の第1段階を開始し、ごく少量（約0.9m³）のALPS処理水を海水（約1,200m³）で希釈し、上流水槽に一旦溜めて、採水しました。
- 第1段階の結果を確認のうえ、3月6日以降、測定・確認用タンクB群からの連続的な海洋放出（第2段階）を開始する予定です。

＜2026年3月4日までにお知らせ済み＞

- 本日（2026年3月5日）、上流水槽内のALPS処理水を海水で希釈した水に含まれるトリチウム濃度について、計算値と分析値に有意な差がないこと、700ベクレル/リットル※未満であることに加え、ALPS処理水希釈放出設備の性能に問題がないことを確認し、第2段階への移行を判断しました。
- また、日本原子力研究開発機構（JAEA）にも、採取した水を分析いただき、計算値と分析値に有意な差がないこと、700ベクレル/リットル※未満であることを確認しています。
- これらを踏まえ、3月6日午前10時30分頃に海水移送ポンプを起動し、測定・確認用タンクB群からの連続的な海洋放出（第2段階）を開始する予定です（予定放出期間：3月6日～3月24日、予定放出水量：約7,800m³、想定トリチウム総量：約2.0兆ベクレル）。
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

※分析の不確かさや計器誤差等を考慮し、運用の上限値である1,500ベクレル/リットルを超えることがないように設定した値

[参考] 2段階放出の手順

- 2段階放出は以下の手順で行います。

第1段階 … 機器の総合的な性能確認（海洋放出はなし）

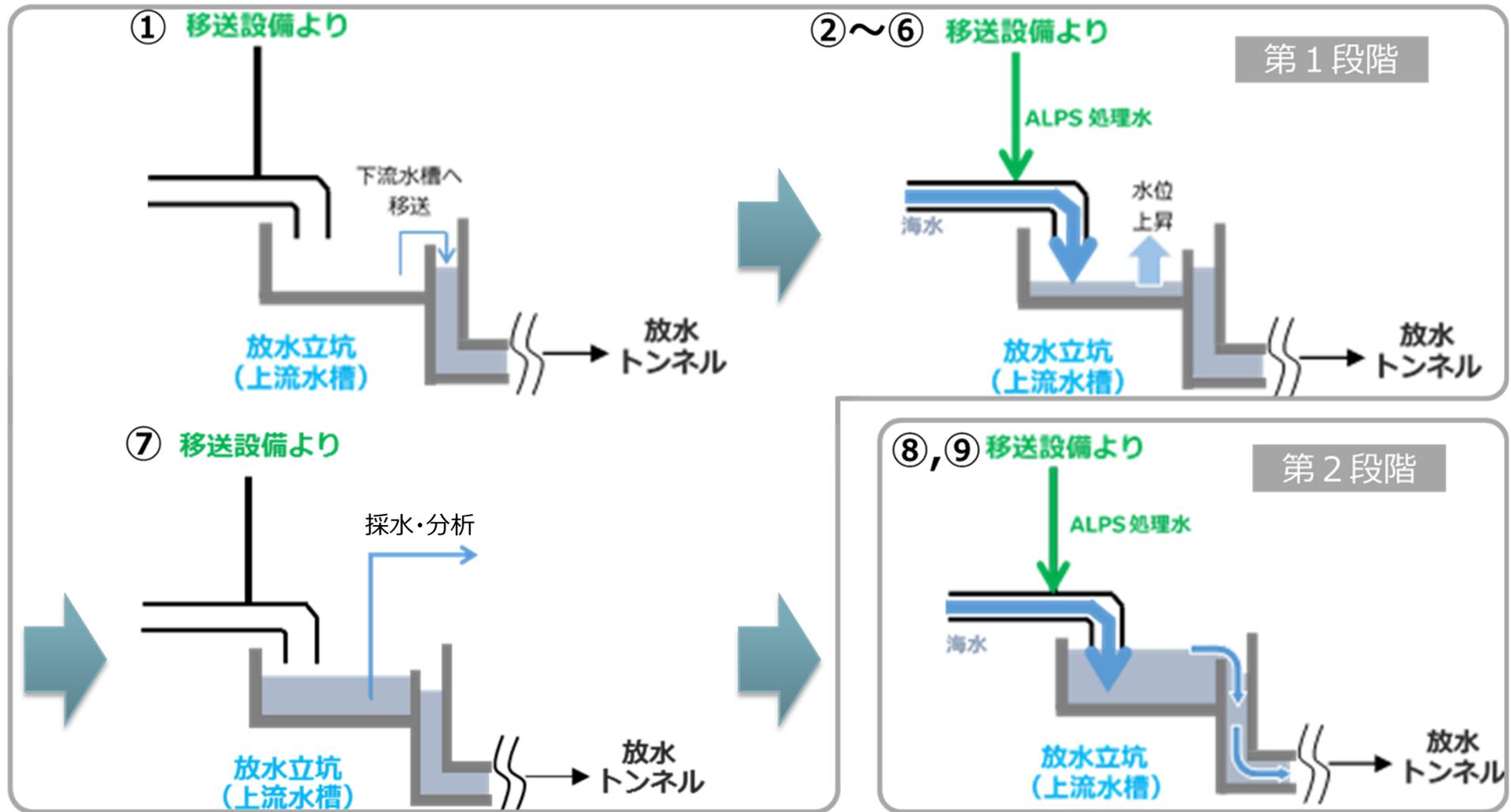
- ① 放水立坑（上流水槽）を空にする。
- ② ALPS処理水（測定・確認用タンク）のトリチウム濃度をシステムに入力
- ③ 海水移送ポンプ1台を起動
- ④ 海水移送ポンプ1台が定格流量に達した後、ALPS処理水移送ポンプを起動
- ⑤ トリチウム濃度に応じてALPS処理水を海水で希釈した水が700 μ クレル/ℓ ※となるようにALPS処理水移送流量を自動調整
- ⑥ 規定流量到達後、ALPS処理水移送ポンプ停止、海水移送ポンプ停止
- ⑦ ALPS処理水希釈放出設備を動作させ、その性能に問題がないことを確認する。なお、上流水槽内のALPS処理水を海水で希釈した水に含まれるトリチウム濃度についても分析を行い、計算値と分析値に有意な差がないこと、700 μ クレル/ℓ未満であることを確認する。

※分析の不確かさや計器誤差等を考慮し、運用の上限値である1,500 μ クレル/ℓを超えることがないように設定した値

第2段階 … 連続で海洋放出

- ⑧ 海水移送ポンプ2台を順次起動（上流水槽内の希釈水の放出開始）
- ⑨ 海水移送ポンプ2台が定格流量に達した後、ALPS処理水移送ポンプを起動（連続放出）
（海洋放出中の「希釈後トリチウム濃度」は、計算値および海水配管ヘッダ下流部から毎日採取した水の分析値により管理）

[参考] 2段階放出の運用方法



①:放水立坑（上流水槽）を空にする。

②～⑥:ごく少量（約0.9m³）のALPS処理水を海水（約1,200m³）により希釈し、上流水槽に一旦貯留する。

⑦:ALPS処理水希釈放出設備を動作させ、その性能に問題がないことを確認する。なお、上流水槽内のALPS処理水を海水で希釈した水に含まれるトリチウム濃度についても分析を行い、計算値と分析値に有意な差がないこと、700ベクレル/リットル未満であることを確認する。（①～⑦までが第1段階）

⑧,⑨:その後、第2段階として、連続で海洋放出する。